
-SAKURA-

REN

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

- SAKURA -

【Nコード】

N8264Y

【作者名】

REN

【あらすじ】

あなたは知っていますか？いや、信じていますか？並行世界【パラレルワールド】を

プロローグ

俺はこの世界に愛想を尽かしている
いや、愛想を尽かされているのかもしれないな

この世界は不公平だ
子供のころは年齢だの言われ
大人になったら階級？
ふざけるな

俺はこんな世界に居たくない
早く消え失せたい

だが、死にたくはない
なら、俺の信じている世界

パラレルワールドにかけてみよう

大人 子供

男 女

ベテラン 新人

俺は何故こんな世界に生まれたのだろう
嫌だ

別に親が生んだことを恨んでるわけではない
むしろ、感謝している
俺は・・・

1話 1 / ?

「…ん？ 朝か」

俺は瞼を通してまぶしさを感じた

そして、おもむろに横に置いてある時計を見る

『7:32』

「…え」

学校が始まるのは7:50

「遅刻じゃん」

俺はさほど驚いた感情を出さずにつぶやく

もそもそとベッドから出て着替える

うちの学校は私服で登校する

そして、一階に下り……………

「つつー！」

階段の微妙な角に小指をぶつけた

これが地味に痛い

「ぬ…」

顔をしかめながらリビングに行く

「あ、蓮起きたんだー。おはよー」

つと、姉貴に挨拶された。

ん？

ああ、自己紹介がまだだったか

俺の名前は『桜峰 蓮』 サクラミネ レン

自称：漢の中の男

なぜ、自称なのかというと

「もう、ちくしょう！ 可愛いな！」

姉貴が俺の事をかわいいと扱う

まあ、姉貴だけではないんだがな

「姉貴ー。俺学校あるからー」

さりげなくよけると

「ん？ なんか今日用事あるの？」

と、俺の心の奥底にある記憶に呼びかけてくる

今日は

【日曜日】

・・・起きるんじゃない

1話 2 / ?

「いや、気のせいだった」

俺は眠たいから、自室に戻ろうとした

テクテクテク

「・・・」

背中に姉貴の視線を感じる

なにか。俺の足音がおかしいのか

「やっぱり足音が面白い！！！！」ムギユー

「!?!」

俺の背中から腕を回して来て口をふさいだ

なにで？

そりゃあもう。腕ですよ

右腕で俺の口に当ててきてふさいだ

「……」

俺は精一杯の白い視線を姉貴に送った

だが、気付いてくれない

まあ、俺前向いてるしな

「瑞樹ー 蓮捕まえたよー」

姉貴が二階に向かって、叫ぶ
俺はその名前を聞いて焦る

「んー!!!!!!んー!!!!!!」

バタバタ両手両足を駆使して暴れまくる
俺の日頃クールな性格なんて関係ない
アイツに捕まるぐらいならっ

「おおー 冷音ー さんきゅー」

俺の視界に、ショートカットをガシガシしてる女性が見えた

その瞬間俺の体が動かなくなった

「…瑞樹。 服」

姉貴が俺の硬直状態に気付いて注意した

「ん？ ああーね」

また、モソモソと二階に上がっていった

1話 3 / ?

「…」

俺は数分後姉貴から瑞樹へと明け渡された

「ああー、もうコイツかわいいなあー」

俺の頭をなでながら姉貴へと話をふる

「そりゃあ、私の自慢の妹だからねー」

俺はその言葉に反応する

「俺は男だっ！…！」

軽く怒鳴ってしまいながらも反論した

「えー。だって蓮こんなにかわいいじゃん」

そついいながら俺のまたのあたりに手を持ってくる瑞樹

「い、や。ちょ。やめるよ」

焦りながら体を震わせる

俺は焦ると体が動かなくなってしまうことがおおい

「男なんですよ？黙ってなさい」

瑞樹が耳元で囁きながら、手を持ってくる

ついに触れた瞬間

「お前…ま…じふざけんなよ…なんで、俺がこんなことに…」
声には出さないが俺の目から聖水があふれ出た

俺は悔しかった

身長で負ける

性格で負ける

腕力で負ける

俺が勝てることは何もない

「あーあ。瑞樹が蓮泣かしたー」

姉貴が軽くおちやらけながら瑞樹に責任転換をしてる

姉貴も俺の事をいじめたくせに

「あ…ごめん」

瑞樹が俺の体の拘束を解いた瞬間俺は立ち上がって部屋に逃げた

途中階段で姉貴が

「蓮待って」

声をかけてきたが

「しゅん」

壁を叩きながら一言言ったら
黙った

俺は、部屋に入り鍵を掛ける

そして、壁についでる姿見に体を映した

黒い長髪

冷たい目

しなやかな両手両足

軽く太いとまではいかない丸い輪郭

なんで俺は、男の娘なんだ

世間一般では俺の事を男の娘という

オトコノムスメ

ではない

オトコノコ

だ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8264y/>

-SAKURA-

2011年11月26日01時48分発行